

歴史民俗資料館だより

令和7年3月号 弥生 仙台市歴史民俗資料館



〒983-0842 仙台市宮城野区五輪1-3-7 TEL 022-295-3956 FAX 022-257-6401

季節展示「ひな祭り」2月15日(土)～3月23日(日)

2月15日(土)から季節展示「ひな祭り」を開催しています。展示しているのは1階ロビーと2階の常設展入口付近と体験学習室です。

1階ロビーにある「七段飾り」は、下の写真のように丁寧で美しい装飾が見事です。2階には、明治初期に製作された堤人形のひな人形や明治時代後期のひな人形を展示しています。

間もなく、榴岡公園の梅が咲くことでしょう。美しい梅の花を愛でるとともに歴史民俗資料館の季節展示「ひな祭り」で春を感じてみませんか。



七段飾り「女雛」



七段飾り「御膳揃」



七段飾り「御駕籠」



七段飾り「御所車」



堤人形のひな人形



明治時代後期のひな人形

御利用ありがとうございました 令和6年度の学校利用終わる

2月28日の学校を最後に、令和6年度の学校利用が終わりました。仙台市内の学校を中心に来館いただいた学校は、仙台市及び県内の学校が94校、県外の学校が15校、合わせておよそ4,500人の児童・生徒に来館していただきました。ありがとうございました。後日、感想等をいただくこともあり、職員一同励まされております。御支援いただきました学校、教職員の皆様に深く感謝申し上げます。

令和7年度も、ぜひ御利用ください。お待ちしております。

令和7年度分の予約は、4月1日(火)午前9時から電話で承ります。

仙台の春の年中行事 弥生（3月）

春の行事

■彼岸は春分、秋分の日をはさんで前後3日間ずつ行われる。彼岸の初日は入り日といい、そして春分、秋分の日が中日にあたり、最終日をお帰りという。入り日は精進料理、中日には餅を仏壇に供え、この餅をお土産餅としてお帰りの日に墓前に供える。ただし春彼岸には根ひげつきのトコロ芋と一緒に供えたり、コシアブラで作った削り花を墓前に供えたりする。削り花の製作は山間部農村の春の副業となっている。

※ところ（野老）・・・ヤマノイモ科の蔓性多年草。根茎は苦みを抜けば食用となる。
(広辞苑より)

山間部の農家では、必ずけがをするからなどといって、中日に山に入ることを戒め、中日とお帰りの日には山仕事を休んだが、農作業を休むことはなかった。そのため、「盆、盆と待ったる盆はただ三日、いらざる彼岸は七日あり」といわれた。また、町場の商家では、特に彼岸の時期を休日とはしなかった。

■三月三日は節供日で、農家では草餅を作り神棚に供える。また、雛人形を飾る家では近所の人たちを招き、お振舞いをした。

■立春から数えて八十八日目の夜を八十八夜という。農家ではこの日の朝露に濡れた餅草（蓬）を使って草餅を作り、神棚に供える。この草餅を食べるとシンショタカリ（高血圧）にならないという。また、この日は播種の最適日とされていた。

(参考文献：仙台市史 特別編6「民俗」)

